



なぜ、どうしての興味を続かせるには

校長 東 徹郎



左の写真は、阿久根漁港入口交差点に立っている立派な2本の木の写真です。2月初旬頃から花が咲き始め、先週満開となり、周辺にはほのかな香りを漂わせていました。

さて、交差点の信号待ちのわずかな時間を利用して、何人かの子供たちに聞いてみました。「クイズです。この花の名前は何か？」すると「桜」とか「桃」とか「梅」などと答えてくれました。クイズですから、正解を伝えないといけません。「正解は梅です。梅は梅でも、枝垂れ（しだれ）梅って言うんだよ。」と話していると、信号が青になり、詳しい説明ができないまま、学校に向かって歩いていく子供たちの背中を何度か見送りました。ところが、次に交差点に来た6年生の女兒に「この花の名前知ってますか。」と尋ねると、「しだれ梅？」と返答。おもわず、「おーすごい。よく知ってるね。さすが。」と感心していると、また信号が青になり、その子も学校に向かっていきました。

その子の知識に興味をわいた私は、その子の読書冊数を調べてみました。読書の冊数だけが知識の量に比例するわけではありませんが、やはり多くの本を読んでいた。本で得た知識やネットなどで見た写真や動画だけでは、記憶の中にはなかなか残りません。その子は本物を見たり、実体験をしたりすることが多いのではないのでしょうか。そのことによって、知識がしっかりと頭の引き出しの中に残っているのではないかと勝手に想像しました。梅の花クイズには余談があります。別の日に、4年生の女兒が、「花びらの数を見たら、梅か桜か見分けがつかますよね。」また思わず「そのとおり。さすが。よく知ってるね。」この子も、実体験での記憶の中に花の形や花びらの数まで残っているのではないのかと感心しました。

子供たちは「なぜだろう。どうしてかな。」と思ったら、知りたくなり、学校でも家庭でも大人を質問攻めにするときがあります。ご家庭で「これ何。なんて。どうして。」の質問に、どんな返しをされていますか。「いいところに気づいたね。」とか「それはね〇〇〇だからなんだよ。」とか「なるほど。調べてごらんよ。おもしろいかもよ。」と次の興味が続く会話になっているのでしょうか。面倒だとか忙しいといった理由で親子の会話のキャッチボールを返球せずに終わらせず、ぜひ、子供の「なぜ。」の直球を受け止め、優しく返してあげてください。

花の知識を持っていた子供たちの家庭では、きっと会話のキャッチボールが繰り返されているに違いないと、またまた勝手な想像をしてしまいました。

睡眠は質より量

1月28日に長島町で開かれた北薩地区学校保健研究協議会で、「笑顔でスタート！子どもの快適な朝のための睡眠法」と題して、睡眠サポート鹿兒島の松木繁美さんの講演を聞きました。睡眠が不足すると、学業成績や運動パフォーマンスの低下、精神的な安定の欠如など悪影響を及ぼすことはご存じかと思います。現代人は大人も子どもも睡眠時間が少なくなってきました。その原因の一つが明るい光の取り過ぎにあるそうです。人は昼行性の動物ですから、夜は暗くなって眠たくなってるのが当たり前なのに、暗くならないので眠たくならないのだそうです。そこで、夜には部屋の明かりを暗くするとか、テレビやタブレットなどの光量を減らすようにする（使わないのがいいのですが）といいそうです。試してみてください。ロサンジェルスドジャースの大谷翔平は睡眠時間が約10時間だそうで、「1日が1時間増えたら何に使うか？」に、「睡眠です。理由は、クオリティが上がるから。」と答えています。よく眠ることは最強のパフォーマンス術なのですね。